

ミュージアムコラム

2020年3月16日、着物類2,519点を含む「武庫川女子大学近代衣生活資料」(9,092点)が国の登録有形民俗文化財になっています。附属総合ミュージアムでは1年を通して、季節ごとに様々なテーマで資料をピックアップし、1階ロビーにて展示をおこなっています。

2023年度冬季企画

きっしょうじゅう

龍と吉祥獣

2024年1月15日(月)～3月8日(金)

2024年(令和6)は辰年です。十二支の第五位(東南東の方角)に位置する「辰」は、万物の胎動を意味し、十二支獣では龍で表されます。

龍は一切の鱗を具えた生物の長ともいわれ、蛇体に鯉の鱗、駱駝の頭に鬼の目、鹿の角、鷹の爪、蝙蝠の翼を持ち、耳は牛、掌は虎に似るとされています。神秘的な力を持ち、天地を自由自在に往来することのできる龍は、鳳凰・麒麟・亀とともに四霊の1つに数えられ、吉祥獣としても崇められています。

今回の冬季企画では、干支にちなんだ龍と、龍と所縁の深い鯉、鳳凰、亀などの吉祥獣を表した帯・モスリンを展示しています。力強い姿の吉祥獣からパワーを貰いましょう!



1. 亀甲に丸龍文様袋帯 (昭和戦後期)

2. 祥獣文様名古屋帯 (昭和期)



1. 亀甲に丸龍文様袋帯 (左)
2. 祥獣文様名古屋帯 (右)

1. は雲を円形に連ね、その中に龍を配した丸龍文の袋帯、2. は龍・鳳凰・獅子の姿をそれぞれ丸く表した名古屋帯です。どちらも丸文ベースの文様ですが、1. はリアルさを感じられる写実的な表現で、2. はどこか誇張した表情がユニークで可愛い表現です。1. は結婚式などの公式な場、2. は襦袢からの転用で、私的な場で着用されていたことが知られます。このような用途の違いは、意匠の中の動物の表情にも影響を与えている可能性があります。龍・鳳凰・獅子などの吉祥獣は、本来格調高い権威のシンボルでもあります。2. は既に大衆化された親しみやすい文様となっており、大いに魅力が感じられます。(平)



3. 荒波に龍文様モスリン裂（大正～昭和期）

4. 鯉の滝のぼり文様モスリン裂（大正期）



3. 荒波に龍文様モスリン裂（左）

4. 鯉の滝のぼり文様モスリン裂（右）

モスリンとは木綿や羊毛などの梳毛糸を平織りにした薄手の生地で、発色性が高く、龍や鯉の緻密で写実的な表現が可能となっています。3.の龍について、中央のものは瓢箪、周囲のものは、如意棒のような長い棒状のものを抱える姿、宝塔らしき器物を背後にして如意宝珠を手に執る姿をしています。小宇宙を意味する瓢箪を掲げる龍は、万物の長たる側面を表象し、その他の龍については、龍宮殿に棲む水神としての龍王の姿を表現していると推察されます。4.は「登龍門」の語源でもある、龍門瀑布を登り今にも龍に転じようとする鯉の姿が表されます。どちらも男児用の産着や襦袢に用いた図柄と想像されます。（平）



5. 桐鳳凰文様丸帯（昭和戦前期）

6. 鶴亀文様名古屋帯（昭和戦前期）

「鶴亀文様名古屋帯」「桐鳳凰文様丸帯」にみられる鶴と亀、鳳凰は、龍と並んで吉祥のモチーフとして古来より愛されてきた吉祥獣の代表格で、着物や絵画、工芸品などに数多く表されてきました。動植物や器物など数多く存在する吉祥モチーフには、それぞれに長寿、子孫繁栄、富貴など様々な意味や願いが込められますが、「鶴亀文様名古屋帯」にみられる、長い海草を柵引かせた蓑亀は万年の寿命を持つと考えられており、寿命千年とされる鶴とともに長寿のシンボルとして知られます。

また鳳凰も、鶴亀と同じく吉祥モチーフとして文様化されてきました。鳳凰は古代中国思想から生まれた架空の鳥で、徳の高い君子が帝位につくと出現する瑞鳥と考えられており、天下泰平の象徴として愛されてきた存在です。また龍・亀・麒麟とともに中国では四瑞（四霊）として尊ばれ、日本に伝来してからも格の高い文様として多用されてきました。単体で用いられることも多いですが、鳳凰は桐の木に棲むとされることから桐鳳凰の組み合わせや、長寿の象徴としても知られ、邪気を払うともされる菊、龍や麒麟といった吉祥獣など、様々な組み合わせで文様化されます。（並木）



5. 桐鳳凰文様丸帯（左）

6. 鶴亀文様名古屋帯（右）

次回の展示は、3月頃からを予定しています